

までの50年と今後についての展望が議論され、Aberdeen大学のProf. Jennifer Clelandの招請講演では、医師・医学者のキャリア選択の要因について、JACMEの奈良信雄理事による特別講演では、医学教育評価の現状について、ソウル大学のProf. Yoon Hyun-Baeの日韓医学教育学会交流招請講演では、グローバル化の中の医学教育について議論された。また、医学教育振興財団による特別企画では、日英の医学教育交流についての報告と問題提起をしていただいた。

この他、シンポジウム15セッション、ワークショップ3セッション、International Session 35題、一般演題393題、学生セッション25題、プレコンgres・ワークショップ4セッションが実施された。どのセッションも活発な討議がなされ、2日間ではとても議論が尽くせない内容となった。また、今回はできるだけ大学施設と大学関係者で実施しようという、手作りの学会とした。特に、学生ボランティアも64名参加し、大会の企画・運営に大変貢献していただ

いた。改めて学生さんの医学教育への関心の大きさと、若い彼らの力を確認することができた。

学会のメインテーマの「学ばんと欲すれば—excellenceをめざして—」は、明治13年に建立の、本学の設立経緯を刻んだ「療病院碑」の中の「人にして疾病なるや、学ばんと欲すれば能わざるなり」で始まる文書から転用した。本学の理念である「世界最先端の医学を地域へ」の内容がすでに明記されており、また、医学医療を学ぶものとして、まず自身の健康から省察することが示されている。療病院碑は次のような文言で結ばれている。COVID-19を経験した現在、その卓見に今さらながら感じ入る。

「今より後、民の疾病を除きてその健康を保つは、難きことにあらざるなり。請ひ願わくば、後の政をこの土に為す者、能くその始を思つてその終わりを善くし、敢えてこれを廢墜有ることなく、欺民をして永く明治の皇沢にうるおはしめよ。」

3. 第52回日本医学教育学会大会

田川 まさみ（鹿児島大学医歯学総合研究科医歯学教育開発センター）

第52回日本医学教育学会大会は、鹿児島大学医学部が主宰校となり、大会長を河野嘉文医学部長が務めて「医療人育成の責任と挑戦：地域基盤型教育の展開を探る」をメインテーマに、2020年7月17日、18日にかごしま県民交流センターでの開催を目指して準備を進めていた。

新たに公募ワークショップ、学会理事長から市民に向けての講演、医療系教育学会等との合同シンポジウム、「歯学教育者の会」「学生の会」「臨床研修病院指導医・若手医師の会」の実施、地域医療の現場を視察するポストコンgresツアーを企画し、全国の会員の皆様との討議・交流を楽しみにしていた。しかし、COVID-19の

拡大により現地開催が困難となり、2020年5月に学会HPでのWeb公開（動画配信、pdf発表）と予稿集の抄録掲載への変更を決定し、公表した。

動画での発表は、一般公開2講演、会員専用公開3講演、シンポジウム11テーマはpdfファイルでの発表となった。予稿集は従来の形式を大幅に変更し、大会長講演を含む6講演、シンポジウム13テーマ、ワークショップ24企画、一般演題433演題、国際セッション28演題を掲載した。

招請講演はLucie Walters教授（Adelaide Rural Clinical School University of Adelaide）に